



中野

ドモ

リリ



パパ

×
まど
ほむ

成
人
向

? Caution !
for adult only

まどかの部屋

すう～……すう～……

まどかの寝息が聞こえてくる。

同じベッドで寝ようとしているほむらは目が冴えて全然眠る事ができなかった。

ほむらは今日、まどかから夕食に誘われ歓談しているうちに外が暗くなってしまい、母親の強引な勧めもあり、そのままするすると泊まる事になってしまった。

「……ふう」

寝よう寝ようと今まで頑張ってはみたが、今のところ無駄に終わっている。ベッドからはまどかの香りが常にほむらの鼻腔を刺激し続ける。落ち着かず寝返りをしようと掛け布団を動かす度に、まどかの残り香がまどかのかわいらしい笑顔や柔らかい手足を思い出させ、ほむらをたまらなく刺激する。

もう今夜は寝られない、そうあきらめるしかなかった。

「ふう……」

そうあきらめてしまうと幾分気がラクになる。

改めてまどかの寝顔を観察する。気持ちよさそうに寝てしまっているまどかを起こさないように細心の注意を払いながら、そっと近づきじっと見つめる。ちょっとくやしい。

自分はまどかがそばにいるだけでドキドキして眠れないというのにまどかは気持ちよさそうに規則的に寝息を繰り返している。まどかの唇から耳に心地よい寝息が聞こえてくる。

まどかの長いまづげ。

まどかの可愛らしい鼻。

まどかの整った眉毛。

まどかの小さな耳、さわったらずっとさわり続けてしまいそうな耳たぶ。月明かりの中、まどかの桜色の唇が閉じられ、艶やかに輝く。

「んんう……」

ドキッとするほむら。気づかない間に近づき過ぎていた！

急いで離れようとするほむらの肩にまどかの手が寝返りと共に覆い被された。

「っ!!」

よく分からなかった。

頭が時間をかけて処理をし始めるとようやく目の前10cmにまどかの顔がある事を認識する。

このままそっと口を突き出すだけでまどかの可愛い唇とキスできるほど距離に頭が真っ白になる。

鼓動で、ドキドキの音でまどかを起こしてしまわないか心配になるほど自分の耳に鳴り響く。痛いほどに鼓動が速くなる。少し目線を下にずらすと自分の口の前にまどかの可愛い寝息を立てている。

自分の意識とは関係なく少しづつ、少しづつ口がまどかに近づく……近づく……近づく……

……—ふにゅつ

!!!!!!!

意識が唇に集中する、うるさいほどに心臓が高ぶるがまどかが起きる気配はない。

ごくり。

思わず唾を飲んだにも関わらずまどかに触れている唇を動かさなかつたのは自分を褒めてやりたい。

!

不意にまどかの手が引き寄せられる。まるで大好きなぬいぐるみを抱きしめるように、自分を抱き寄せる。

まどかのマシュマロのように柔らかい唇の間から暖かくて柔らかい何かが自分の口の中に進入してくる。

?!

動けなかつた。

自分の歯を丁寧になぞってくるまどかの舌に脳の一部が吹き飛んだような衝撃を受ける。

おそるおそる自分の舌でまどかの舌を愛撫しかえす。

まどかの身体が少しだけ快感に震え、そのまま自分の舌に答え始め絡まり合う。

まどかの息も荒くなり、ほむらの口をむさぼり始める。

「んっ……はあ……」

幼いながらも舌の動きに妖艶さを漂わせ、決してほむらを逃がさぬように絶えず首を引き寄せる。

ぐいっと強く引き寄せられると同時にほむらの太ももの合間にまどかのしっとりと吸いつくような太ももが滑り込む。

「っ！」

慌てて声を殺すことに集中する。

幼い腰つきながらも一生懸命腰を振り続けるまどか。

絶えずまどかの太股がほむらのクリト〇スをぐいぐい刺激し続ける。

「んっ……んう……」

口腔内を舌で蹂躪されつつクリト〇スを刺激されまどかから逃げ出すこともできない

「んあっ……くうんっ」

ついにほむらの口から必死に耐えていたあえぎ声が漏れ始める。

ガチャ——その瞬間扉が開き

!!!!

昇り詰めていた頭が一気に冷える。
誰かが部屋に入ってくる。近寄る足音にまどかから離れようと努力するが、まどかの腕は自分を離してくれそうにない。

「へえ……」

男性の……まどかの父親の声が上から響いてくる。

止めてっ…まどか!

見られている事に羞恥を覚え、離れようとするほむら。

容赦なくまどかは自分の口腔内も、クリト〇スもむさぼり続ける。

ようやく気がついた……答えていた、自分もたえずまどかの舌に答えて絡め合っていたし、まどかの太股の動きに合わせてクリト〇スを押しつけて快感をむさぼっていた。

「まどか……まどか……」

まどかの父親に見られていながらも止める事ができない自分に呆然とする。

そんな自分に構わずそっとまどかを起こすまどかの父。

「んっ……ううっ……」

男くさい異質な香りが鼻を突く。

この後に待っているであろう、まどかの父親からの執拗な責め苦はどうでも良いように何も考えられない。

「ん……お父さん？」

目をこすりながら夢からさめるまどかに自分の落胆の大きさを知る。

このまま続けていたかった。

不意にまどかが寝間着のズボンを脱ぎ始める。

「え?えっ?」

寝ぼけたままなのか、たどたどしい手つきで脱ぎ終えたズボンを投げ捨て父親に向かって足を開く。

思わずほむらの目が一点に釘付けになる。

自分との愛撫の為かぴったりと閉じたおマ〇コから愛液がお尻までこぼれている。

ふとベッドが軋み、横を見ると父親が裸になりベッドの上にひざを立てていた。

「っ!」

眼前にそそり立つ父親のアレを見てしまい混乱して目をそらす。

「お父さん」

想像すらしなかった展開に混乱するほむら

見せつけるように足を大きく開き裸の父親を迎え入れようとする。

よく見れば女の子の大事な所の下、排泄にしか使わない部分をまどかは父親に向けて広げようとしている。

「えっ?あっ」

ますます混乱するほむらを余所に二人の行為は進み続ける。

「いつもありがとね、まどか」

そう言うとまどかの腕よりは多少小さいと言う大きさの男性自身をまどかの肛門にためらわずに差し入れる。

「んくううっ…」

苦痛のため息がまどかから漏れるものの拒否する素振りはない。

それどころかまどか自ら迎え入れようと父親の背中をぎゅっと抱きしめて、

少しでも自分の中に収めようと腰を震わせている。

父親の腰がそっと優しく前後する。

そのたびにまどかが苦しそうに、艶のある声で喘ぐ。

父親のおちん〇んがまどかの肛門から引き抜かれて行くが、長いストロークの間にまどかの肛門が引きずり出されて、めくれだしていく。

ひとり大きな先っぽが抜け出そうな事がまどかの肛門がより大きく膨らむことで分かる。

ガクガク震えるまどかの膝が快感を訴える。

喜んでいる

まどかの上気したホホがそう主張する。

目を奪われ続ける、ほむら。













ありがとう









え?

うつ!!

回復した?

魔力が……

お父さん

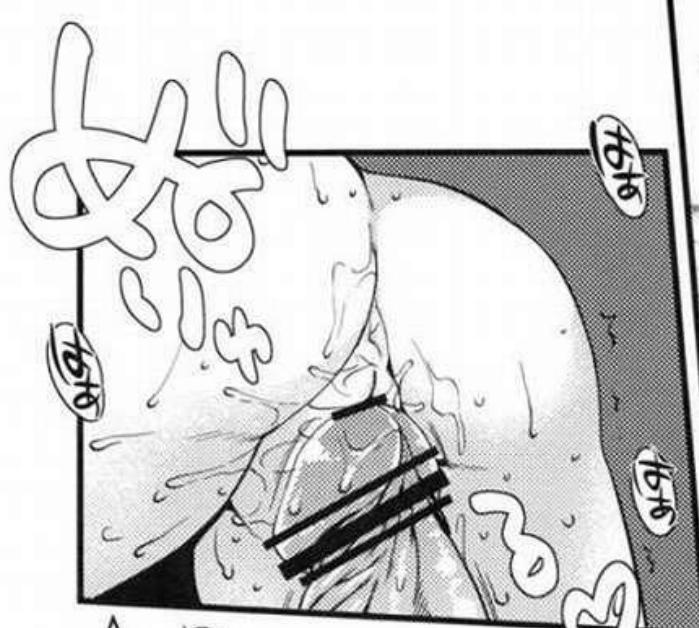
お







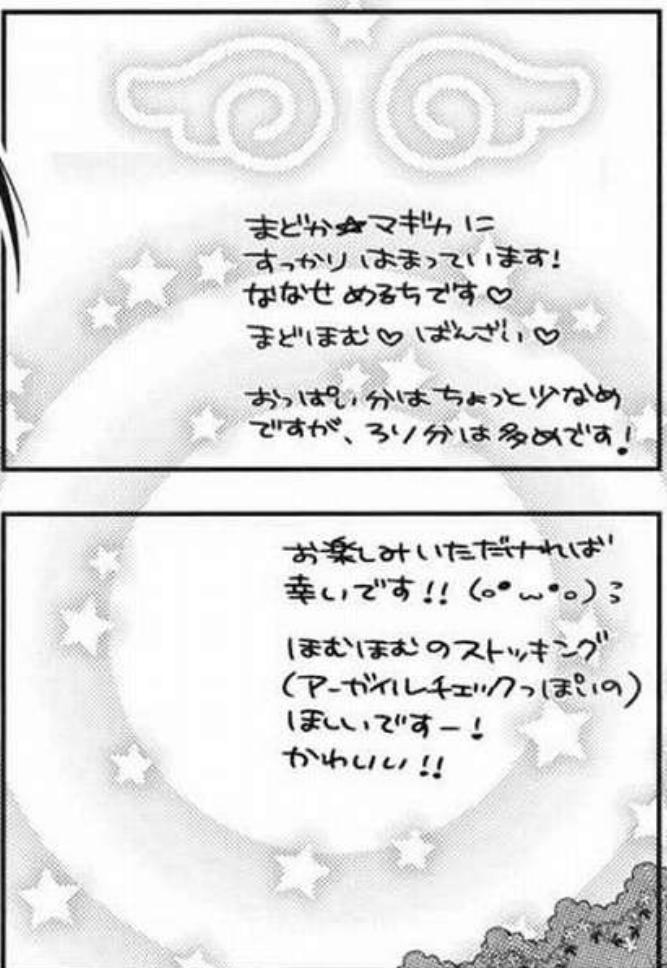
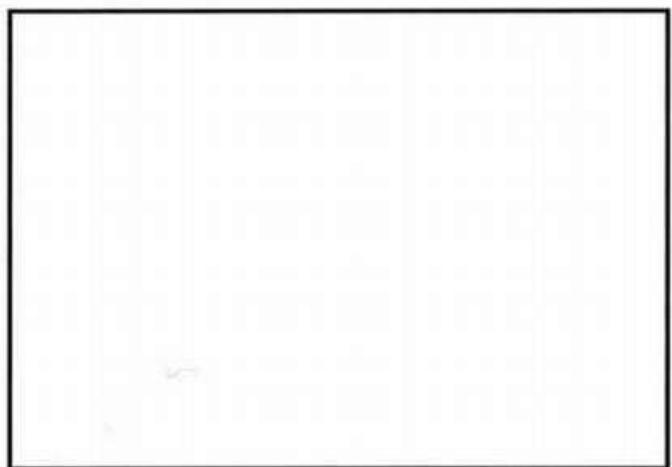




puella magi



madoka magica



まむか



……腔内への射精で
魔力が回復するなんて
とんだ盲点だったわ



二人とも
急におねだり
するようになつて
どうしたの?

内緒だよお





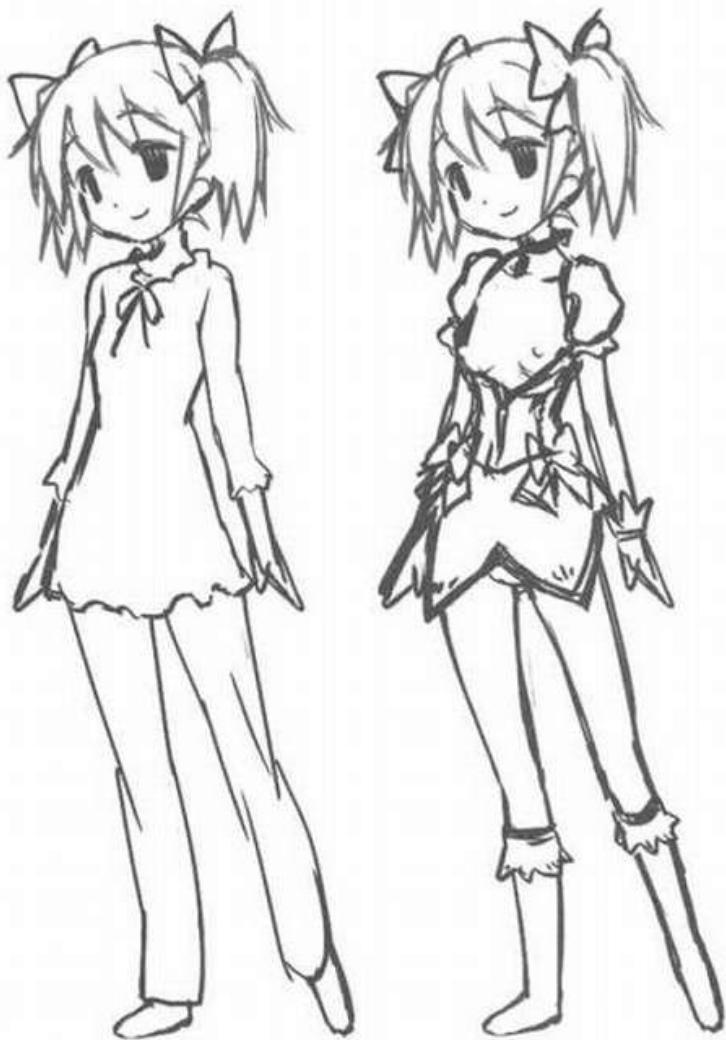
こんにちは、ななせ めるちです!
今回はまどマギ本一!! 魔まママって略す方も
いらっしゃるみたいですが、ななせは
まどマギって呼ぶ派です!

それとなく見始めて、可愛いなーって
思ってみていたら3話あたりからどんどん
すごい展開になって、気づいたら
こわいけど見たい、こわい!でも見たい!
っていう禁断症状がでていました(ω")

仕事中やお給書き中にもまどマギが気に
なって気になって、いろんな展開を
考えてしまったり(笑)

とにかくストーリーから全体の雰囲気まで
毎週毎週引き込まれまくりで、これを
書いている今も先が超気になってます!

本をご覧のみなさまには解っていただけ
ていると思いますが一番好きなキャラは
やっぱりこの二人(まどほむ)
百合ップル的な意味ではなく、それそれが
かわいいなあって思っております♪



さやかちゃんやマミさん、杏子も可愛いので
みんな描きたかったのですが、とりあえず
お気に入りのまどか&ほむら、そして
鬼畜メガネなパパが描けたので満足です(笑)

PIXIVやブログでまどマギ4コマをのせて
おりますー!

いつもの可愛いまどかではなく、ちょっと
シュールでちょいワルなまどかさんを
ギャグ漫画ぽく描いてますー!

もしよろしければそちらもご覧いただければ
幸いです!

ではでは、まど&ほむスキーの皆様
ありがとうございました!!



めるちーか 14
ババ×まとほお

発行 生クリムびよい
発行人 なおせ めるち

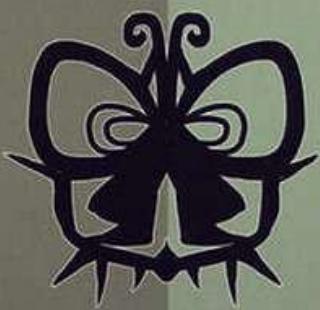
2011年 3月発行
印刷 コーシン出版さま

<http://nanamel.blog77.fc2.com/>

禁無断転載 • 禁無断複製

18歳未満の方の閲覧はご遠慮ください

免責
本書の内容に限り本書発行人は
いかなる保証もいたしません。



パパ活まどぽむ



! Caution !
for adult only